

1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) おにぎりをラップで包む。
- (2) 新しい漢字を覚える。
- (3) 平然とうそをつく。
- (4) バスが乗客を運ぶ。
- (5) 毎朝、七時に才きる。
- (6) ウメの花がさきはじめる。
- (7) 選挙でトウヒョウウする。
- (8) 父はショウウワ時代の生まれだ。

2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～⑤のことばの読み方の説明としてふさわしいものを、それぞれあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|------|------|------|
| ① 雨雲 | ② 台所 | ③ 名札 |
| ④ 荷物 | ⑤ 電池 | |

- ア 上の字も下の字も音読みすることば。
 イ 上の字も下の字も訓読みすることば。
 ウ 上の字は音読み、下の字は訓読みすることば。
 エ 上の字は訓読み、下の字は音読みすることば。

- (2) 次の①～④の——線部のことばを()の漢字を用いて書いたときの送りなを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。

- ① うつくしい絵をかざる。(美)
 - ② 二つの道がまじわる。(交)
 - ③ おいしいごはんを食べてしあわせた。(幸)
 - ④ むずかしい問題をとこうところみる。(試)
- (3) 次の①～③の文の——線部にはまちがひがあります。()に書かれた字数で、正しいことばを書いて答えなさい。
 - ① 弟はしつぽをふんだ犬に追いかけた。(七字)
 - ② ぼくはあまり走るのが速い。(四字)
 - ③ たとえ雨がふったら、公園で遊ぶ。(四字)

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《「あたし（若菜）」は同級生のシーラと卓球大会に出ることになりましたが、本当は卓球大会には出たくありません。そこで、シーラとの練習に行かないことにしました。しかし、次の日、友だちからシーラがずっと待っていたことを聞いて、シーラに謝ろうとしています。》

なかなか話しかけられないでいると、シーラがゆっくりとふり向いた。

ドキンッ！

「あ……な、何してるの？」

あたしは、偶然をよそおってごまかした。シーラはおどろくふうもなく、※をかしげた。

「落とし物したの。たぶん、このへんに落とし物したと思うんだけど……」

「落とし物？ こんなところ？」

①今朝、ここでアリンコを見てたナリ

シーラはしょんぼりしている。五年生にもなって、道草してアリンコを見るなんて、信じられない……。

それでも、シーラと話すきっかけができてよかったと思った。

「じゃあ、あたしもいっしょにさがしてあげる」

②ホント？ やったー！

「で、何をなくしたの？」

きいてみたけど、シーラは「うーん」となるばかりで、*要

15

10

5

領を得ない。三センチくらいの金属っぽいものということだけわかった。

あたしとシーラはしゃがみこむと、草をかきわけてさがした。アリンコが、列を作って通りすぎていく。汗が、ポタツポタツと、地面に黒いしみを作っていた。

なんであたし、こんなことしてるんだろう……。③たまに人が通ると、あたしはあわてて立ちあがって、空を見あげるふりをした。

「あッ」

道路と草むらの境に、キラんと光る小さなものがあつた。てのひらにのせても、それが何かわからない。

「これ？」

シーラに見せると、しゅんとしていた顔が、パーツと明るくなつた。

「わわっ、ア리가十ぴきー！」

うれしそうにダジャレをいって、シーラはそれを受けとつた。

「それ、なんなの？」

よく見ると両はしにレンズがついていて、まるで小さな望遠鏡のように見えた。

「これはね、ドアののぞき穴！」

「のぞき穴？」

なんのことか、さっぱりわからない。

「ほら、家のドアに、だれかがきた時、確かめる穴があるでしょ？ アレ」

「アレ……、ああ！」

40

35

30

25

20

わかった!

家の中から外を見る時ののでき穴。でも、それってふつう、ドアについてるんじゃないの?

「新しいドアにかえる時、お父さんがはずしてくれたんだ」

「どうして?」

そんなものが、はずれるってことさえ知らなかった。

「これをのぞくとね、魚の目から見える風景と、同じものが見れるんだって! アリンコの姿すがたもおもしろいナリ」

「ほんとう?」

あたしはシーラから受けとって、小さな望遠鏡をあっちこっちからながめてみた。確かに、ドアのぞき穴みたいだ。

「虫めがねなら知ってるけど……、じゃあこれは、魚めがねだね」

「魚めがね? それ、おもしろい! サイコー!」

④ シーラは、ガハハハハッとうけていた。何がそんなにおもしろいのか、さっぱりわからない。

「で、でも、それで何するの?」

いつまでも笑っているシーラに、あたしはおずおずときいた。

「友だちとケンカして落ちこんでた時、お父さんがくれたナリ。」

魚の目で世界を見れば、ホントのことが見えてくるって」

「ホント!?」

「ウソっぴ」

「えっ……」

言葉につまった。あたし、シーラにからかわれてるみたい……。

「だって、これでのぞいても、どうしてケンカになったのか、

65

わからなかったもん」

あたしが眉まゆをよせると、シーラはまじめな顔をした。

「でもね、ふつうじゃ目に見えない世界が、見えるナリ」

そういって、声をひそめる。

「若菜には、このポストはどんなふうに見える?」

シーラは、近くの赤い郵便ゆうびんポストを指差していった。

ハ? いってることが、わかんない。意味不明。

「四角くて、赤い……」

「それはほんとう? ホントにホント?」

シーラにつめよられて、あたしはズズツとうしろにさがった。「ただだ、だって、ほんとうも何も……、四角くて赤く見えるよ」

⑤ じゃ、魚めがねで見てみて」

「うーん」

あたしは、イヤイヤのぞいてみた。

レンズの向こう側の風景がグニャツと曲がって、家や電柱がビヨンとのびた。

「あれ?」

あたしは、目をパチパチした。

「魚の目って、こんなふうに見えるの?」

魚めがねでのぞくと、景色が真ん中にギュツと集まって、もりあがって見える。

四角いポストもプニュツとふくらんで、まるっこくなった。

「うん! 魚が見ると、四角くないでしょ? こっちだって、

ホント」

85

80

75

70

ちよ、ちよっと待って。なんか、頭がいたくなってきた。

ポストが四角くて赤いと思ってるのは、人間だけ？ 魚やほかの動物からは、そうは見えないかもしれない。まるかったり、黒かったりするかもしれない……。

「そっか。人間にとつてのほんとうと、魚にとつてのほんとうはちがうんだ。ほんとうって、たくさんあるんだね」

「そーいうこと！ 世の中に、絶対ぜったいなんて、ないのだよ」

シーラは自信満々に、スバツといいきった。

一瞬いっしゅん、ぐるんとめまいがした。

それって、生物の数だけ、いく通りもの見え方があって、同じ数だけちがう世界があるってこと？

もしかしたら人間同士どうしでも、ちがうように見えてるのかもしれない。

〈工藤純子「ピンポンはねる」より〉

(注) 要領を得ない話の要点がはつきりせず、何を言いたいのかわからない。

(1) ※に入る体の一部を表すことばとしてふさわしいものを次

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 顔 イ 腕うで

ウ 眉 エ 首

(2) — 線①「今朝、ここでアリンコを見てたナリ」とあります

が、これを聞いた「あたし」の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

90

ア アリに気を取られて落とし物をしたのはかわいそうだと思
っている。

イ 登校中に道草をするのはよくないことだと注意しようと思
えている。

ウ 小学五年生にもなつてアリを見るなんて子どもっぽいと思
きれている。

エ 何のためにアリを観察していたのだろうと不思議に思っ
ている。

(3) — 線②「ホント？ やったー！」とありますが、シーラは
どういうことをよろこんでいますか。「ふこと。」という形で、

三十字をこえないように（「や。や」「も字数に数えます）書
いて答えなさい。

(4) — 線③「たまに人が通ると、あたしはあわてて立ちあがっ
て、空を見あげるふりをした」とありますが、このときの「あ
たし」の気持ちとしてふさわしいものを次から一つ選び、記号
で答えなさい。

ア はずかしい気持ち。 イ せつない気持ち。

ウ すがすがしい気持ち。 エ うれしい気持ち。

(5) — 線④「シーラは、ガハハハッとうけていた」とありま
すが、シーラはどういうことがおもしろかったのですか。それ
を説明した次の文の□に入るふさわしいことばを、それぞ

れ本文中から、①は七字、②は四字で書きぬいて答えなさい。

〈「あたし」が、□①を□②と名づけたこと。〉

(6) — 線⑤「じゃ、魚めがねで見てみて」について、次のそれ

100

95

ことはありません。

多くの動物のオツパイは、おなかにありますが、サルの中かまのオツパイはわたしたちと同じに胸に二つです。子どもをだいてのませるのにつごうのいい場所です。

きようなゆびを使って子どもの毛をかきわけては、ゴミをとったり、目やにをとってやったりします。こうすることが、愛情の表現なので。子どもは、やってもらっているあいだ、ちょっといたかったとしても、ぜったいにいやがることはありません。

③ 母親にくっついたままだった子どもは、そのうち、母親のまわりで遊びはじめますが、さいしょのうちは、母親のすぐそばです。びっくりしたりすると、すぐに母親の体にだきつきます。だんだんと、母親からはなれて遊ぶようになりますが、それでもおどろいたりすると、母親のところにとんで帰ります。母親も、何かあると、すぐに子どものところへかけつけます。

④ むれでくらすサルの子どもは、同じ年れいの子ザルどうしてあつまって遊ぶようになります。サル山で、同じくらいの大きさの子ザルが、何びきかあつまって遊んでいたら、それは、兄弟ではなく、友だちでしょう。ほとんどのサルは、人間と同じで、ふつう、一度に一頭ずつしか生まれなからです。たまにふたごが生まれるだけです。追いかけてつこをしたり、すもうをとったり、かなりらんぼうに遊びます。ないて母親のところへ帰ることもありますが、すぐに気をとりにおして遊びに行きます。年上の子どもたちは、年下の子どもをだいたりオンブしたりしておもりをすることもありません。

家ぞくでくらすサルの子どもは、兄弟どうして遊びます。年上の兄弟は、弟や妹にちよっかいを出したり、だっこやオンブをしておもりをしたりします。

⑤ 母親がエサを食べているときに、子どもが顔をよせて、じつと見ていることがあります。何を食べているのか、見ているのです。かけらが落ちたりすると、口にいれてみます。そうやって何が食べられるのかをおぼえていくのです。親は、子どもに、わざわざエサを食べさせたりはしません。子どもたちは、自分でエサをとることを学んでいきます。

〈加藤由子「動物、子育てウオッチング」より〉

©JIKS14

(1) 線①「サルの子どもは、母親の体の毛にしっかりとつかまって運ばれます」とありますが、サルの子どもが母親の体にしがみつけるのはなぜですか。その理由を表したふさわしいことばを、「から」に続く形で、本文中から十八字でさがし、その初めと終わりの五字を書きぬいて答えなさい。

(2) ※ に入るふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ ところが

ウ なぜなら エ たとえば

(3) 線②「そういうこと」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 子どもがふり落とされないうような工夫をすること。

イ 子どもを胸にくっつけたまま移動すること。
ウ 子どもが大きくなるとオンブするようになること。
エ 子どもといつもいっしょにいて愛情をそそぐこと。

(4) — 線③ 「母親にくっついたままだった子どもは、そのうち、母親のまわりで遊びはじめます」とありますが、この時期の遊びの説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもは、初めは母親のそばで遊んでいるが、そのうち目のとどかないところで遊ぶようになる。

イ 子どもが遊ぶ範囲はだんだんと広がるが、何かあるとすぐに母親のところに帰ってくる。

ウ 子どもはおどろいたときにすぐ母親のところに帰るが、母親は子どもがどこにいても気にしていない。

エ 母親はすぐに子どもの方から帰ってくる。
いるが、たいていは子どもの方から帰ってくる。

(5) — 線④ 「むれでくらすサルの子どもは、同じ年れいの子ザルどうしであつまって遊ぶようになります」とありますが、むれでくらすサルの子どもたちの遊びの説明としてふさわしいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア らんぼうに遊んでいるうちに母親のもとに帰ることもあるが、すぐにまた遊びに行く。

イ 追いかけてっこをしたり、すもうをとったりするので、遊びの中でしょっちゅうけがをする。

ウ 同じくらいの大きさの子ザルがあつまっていれば、それは

兄弟ではなく友だちであることがほとんどである。

エ 年上のサルは年下のサルをだいたりオンブしたりするが、年下のサルはそれをいやがってはなれてしまう。

(6) — 線⑤ 「母親がエサを食べているときに、子どもが顔をよせて、じっと見ていることがあります」とありますが、この行動の目的について説明した次の文の□に入るふさわしいことを、本文中から九字で書きぬいて答えなさい。
〔母親が食べるものを観察して、それを口に入れてみることで、□を学ぶため。〕

(7) 本文の説明の仕方としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア サルがむれの中で協力して子どもを育てる様子を、筆者がじっさいに見たことをもとに説明している。

イ サルの子どもがどのように育っていくのかを、母親との関わり方を中心しながら説明している。

ウ サルの子どもが成長して一人で生きるようになるまでを、他の動物とのちがいに注目しながら説明している。

エ サルの母親がどのように子どもを育てていくのかを、人間の子育てとくらべながら説明している。

(これで問題は終わりです)

